

国際金融公社(IFC)の マイクロファイナンス

マーク ベリーマン
投融資担当官/マイクロファイナンス専門官
国際金融公社

概要

- マイクロファイナンスとは？
- IFCのマイクロファイナンスにおける実績と戦略
- プロジェクト参考例
- IFCのマイクロファイナンス危機対応
- 2009年以降の活動計画



マイクロファイナンスとは？

“マイクロファイナンス”とは、一般的な銀行サービスを受けることが難しい貧困層・低所得層向けの金融サービス。

- マイクロファイナンスは、貧しい人々に対して、ローン・預金・送金や小額保険等の基本的な金融サービスを提供する。貧しい人々は他の人たちと同様、商売を切り盛りし、資産を形成し、また消費活動を円滑に行い、リスクを管理する為の多様な金融サービスを必要としている。
- 貧困層に対する金融サービスの提供は、貧困の撲滅に貢献、資産形成および所得増加の実現を可能にし、経済的負荷に対する脆さを軽減する為の強力な手段となることが証明されている。



マイクロファイナンスとは？

- 貧困層に対する金融サービス機関としては、様々な形態のものが存在する - 非政府系組織(NGO)、共同組合、自助組織や信用組合などの地域開発機関、商業銀行、政府系銀行、保険、クレジットカード会社、電話・通信サービス、郵便局やその他のPOSが、新しい可能性を提供している。
- 貧しい人々の借金返済能力や貯蓄意欲が証明されるに従い、これらのサービス機関も提供できる商品を増やし、手段、サービスを向上させている。その多くは、小規模な商売の運転資金の貸付や、耐久消費財購入の為に大型ローン、また子供の教育資金や緊急に入用な資金の貸付を行っている。これらの貧困層の人々にとっては、安全かつ安心な預金サービスが特に多くの支持を集めている。
- 多くの貧しい人々が、実家に仕送りをするために送金・為替サービスを利用している。携帯電話を通しての銀行サービス(モバイル・バンキング)は金融サービスを更に便利かつ安全にし、また、周りから隔絶された地域に住む多くの人々にも利用可能となっている。
- 平均貸付額の範囲は、東南アジア平均の149米ドルから、東ヨーロッパ及び中央アジア平均の1,597米ドルに及ぶ。

マイクロファイナンスの進化

1970年代初め – マイクロクレジットの誕生：
グラミン銀行、Accion, BRAC, SEWA ...

1980年代 – 金利によるコスト回収と高い返済率が、マイクロクレジットを長期的に持続可能かつ規模のあるプログラムへと導く。

1990年代初め – “マイクロクレジット”という言葉が、信用提供(クレジット)だけでなく、貯金や保険、送金といった他のサービスを含む“マイクロファイナンス”という言葉に変化しはじめる。

現在 – 貧困層に有用な包括的金融システムの構築に重点が置かれている。2006年ムハマド・ユヌス氏がグラミン銀行における功績において、ノーベル平和賞を受賞する。



マイクロファイナンスの進化

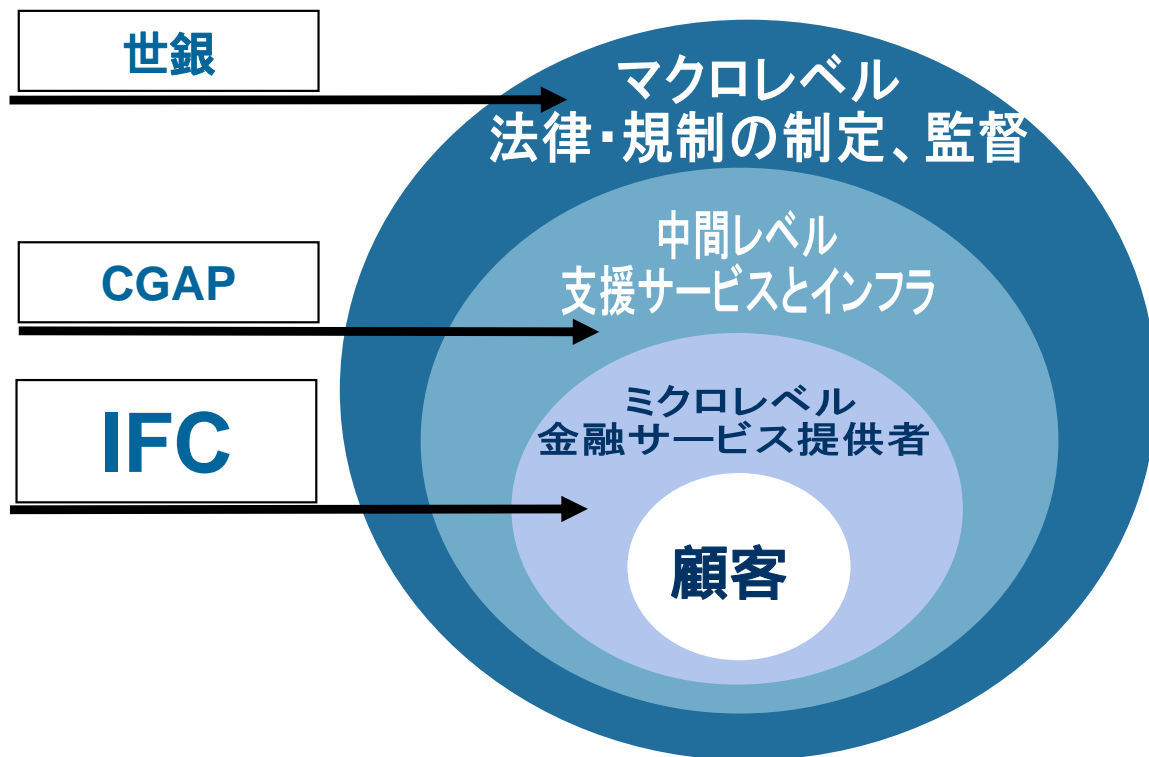
10年前

- 効用と収益性のトレードオフの可能性
- マイクロファイナンスは金融業界から孤立した特化型ニッチ分野
- 信用提供(クレジット)が主な商品
- マイクロファイナンス専門のNGOが主な提供機関
- マイクロファイナンス機関(MFI)を設立・支援することで、支援者たちはマイクロファイナンスが存続可能であることを立証しようとする

現在

- 持続可能性と効用が両立
- マイクロファイナンスは大きな流れとなり、金融業界を巻き込む
- 提供商品に貯金や送金、保険が含まれた
- サービスの対象範囲が一般家計に必要なものへ拡大
- サービスの提供者の多様化
- 参加者と投資家層の拡大

マイクロファイナンスにおける世界銀行グループの役割

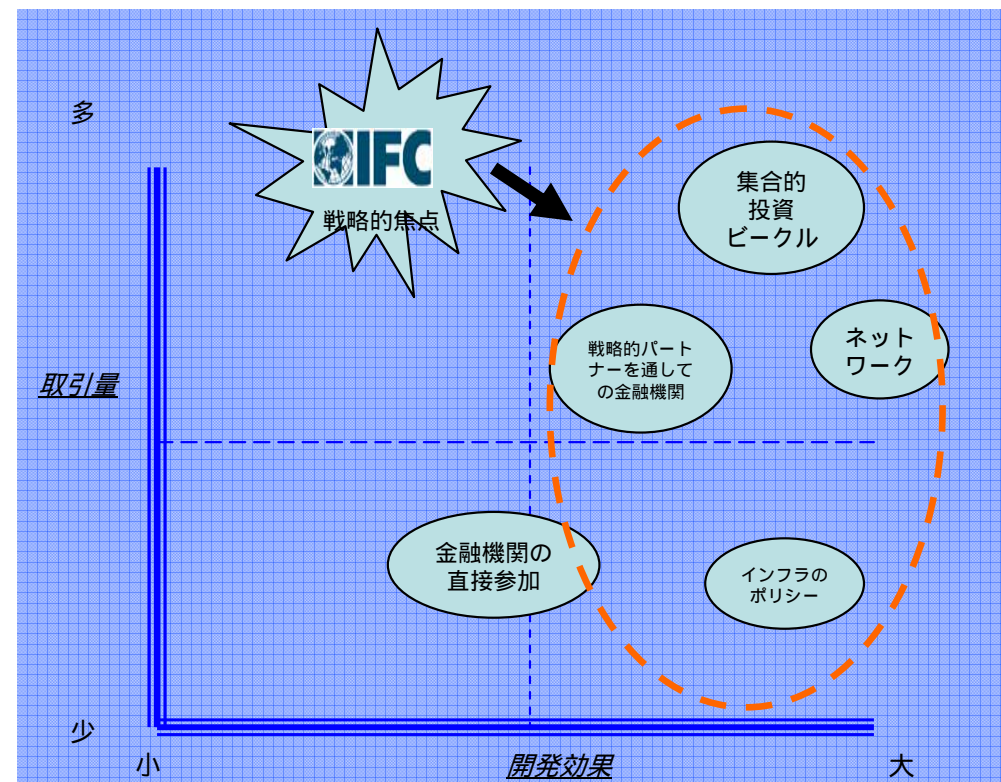


- 貧困撲滅の手段としての、マイクロファイナンスの長い実績がある。
- 財政的に持続可能な組織として支援するには、民間からの投資が必要。
- IFCは商業的に持続可能なMFIを設立・支援することに焦点を置く。それらMFIが民間投資を促し、規模の拡大や未充足の要求に応える。
- IFCはビジネスとして成り立つマイクロファイナンスの模範例を示し、それを民間企業投資家に対して投資対象資産として売り込む触媒としての役目を担う。
- 金融機関がより多くの人々に、コスト面でより有利な方法でサービスを提供できる様、IFCは技術・金融商品・ポリシーの発展を通して、マイクロファイナンスの革新を先導し続ける。

**IFCは、投資金額と投資対象国数の両面で
マイクロファイナンス業界トップの投資家**

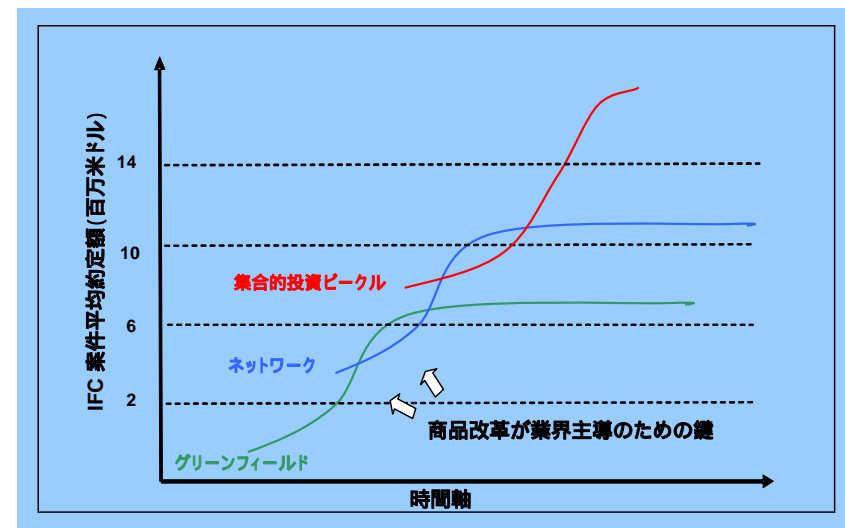
IFCのマイクロファイナンスにおける4つの重要戦略

1. 集合的投資ビークルの推進
2. マイクロファイナンス・ネットワーク参加者の拡充
3. 個々の金融機関支援
4. アドバイザリーサービスを選別されたプロジェクトに提供



業界の発展の最前線にいるIFCの推進対象:

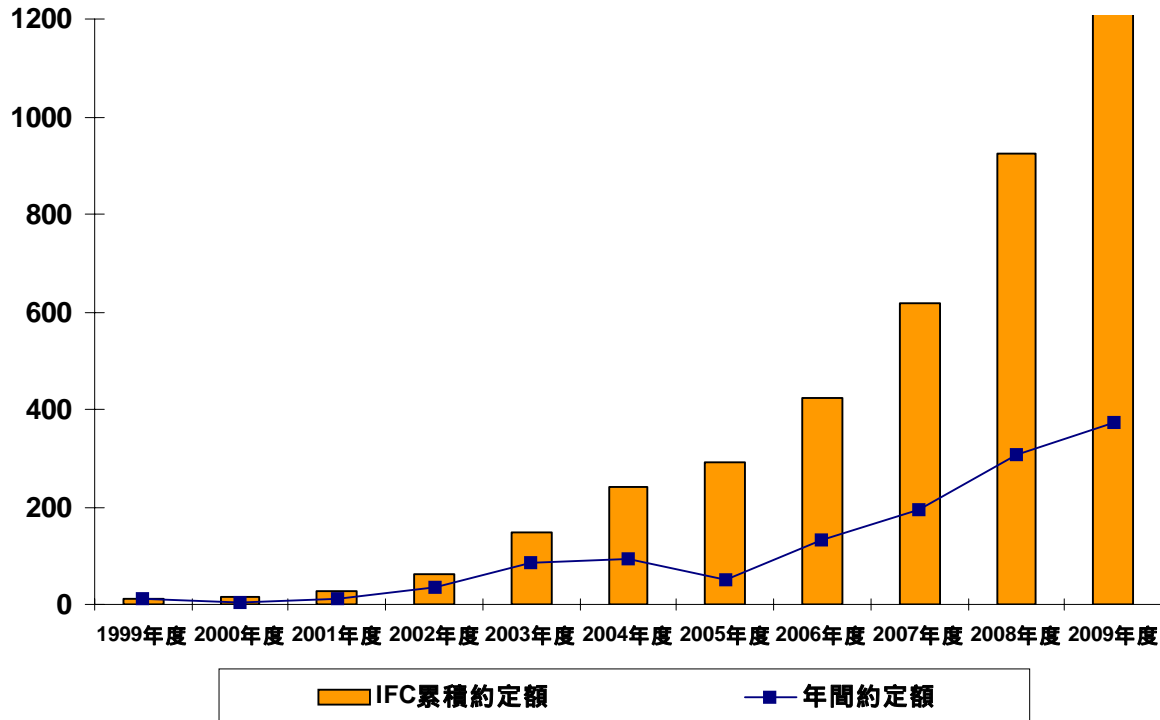
- 変革
- マイクロファイナンス専門銀行とネットワーク
- 集合的投資ビークル
- 地域および国際的な資金動員
- 最下層の人々にサービスを提供する金融機関の能力増強
- 金融インフラ面及び政策面での制約要因に対する選別的取り組み



軌跡:

- 1990年代半ば: MF Bank of BiHの設立
- 2000-2002年: “Pro Credit” モデルの実行とAcleda及びCompartamosの変革
- 2003-2007年: 債券及び株式ファンドへの多様化 (AIM, Shorecap, GMF, EFSE), 個々のMFI(Compartamos, Edyficar, MiBanco)に対する債券・シンジケーション案件の信用補完
- 2008年: Citiとの共同私募案件 (GMF), スタンダード・チャータードとの仕組案件、及びリベリア・コンゴ・中国における銀行スタートアップ案件

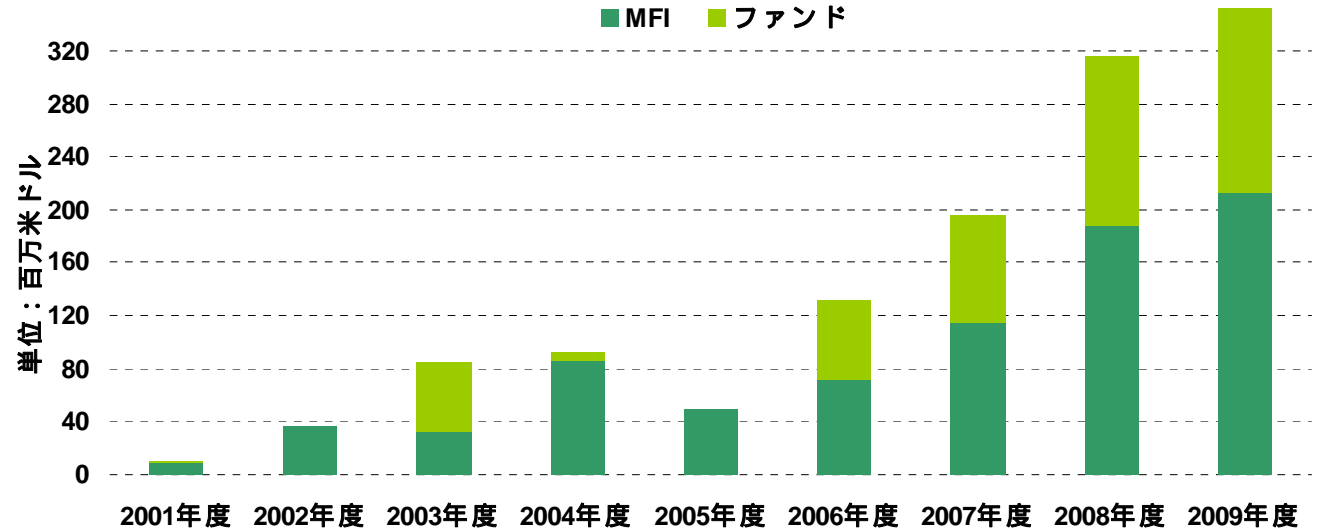
IFCマイクロファイナンス年間及び累積約定額(単位:百万米ドル)



■ 2009年度約定額:
3.73億米ドル

■ 累積約定額:
12.9億米ドル以上
(2009年6月現在)

IFCマイクロファイナンス年間約定額

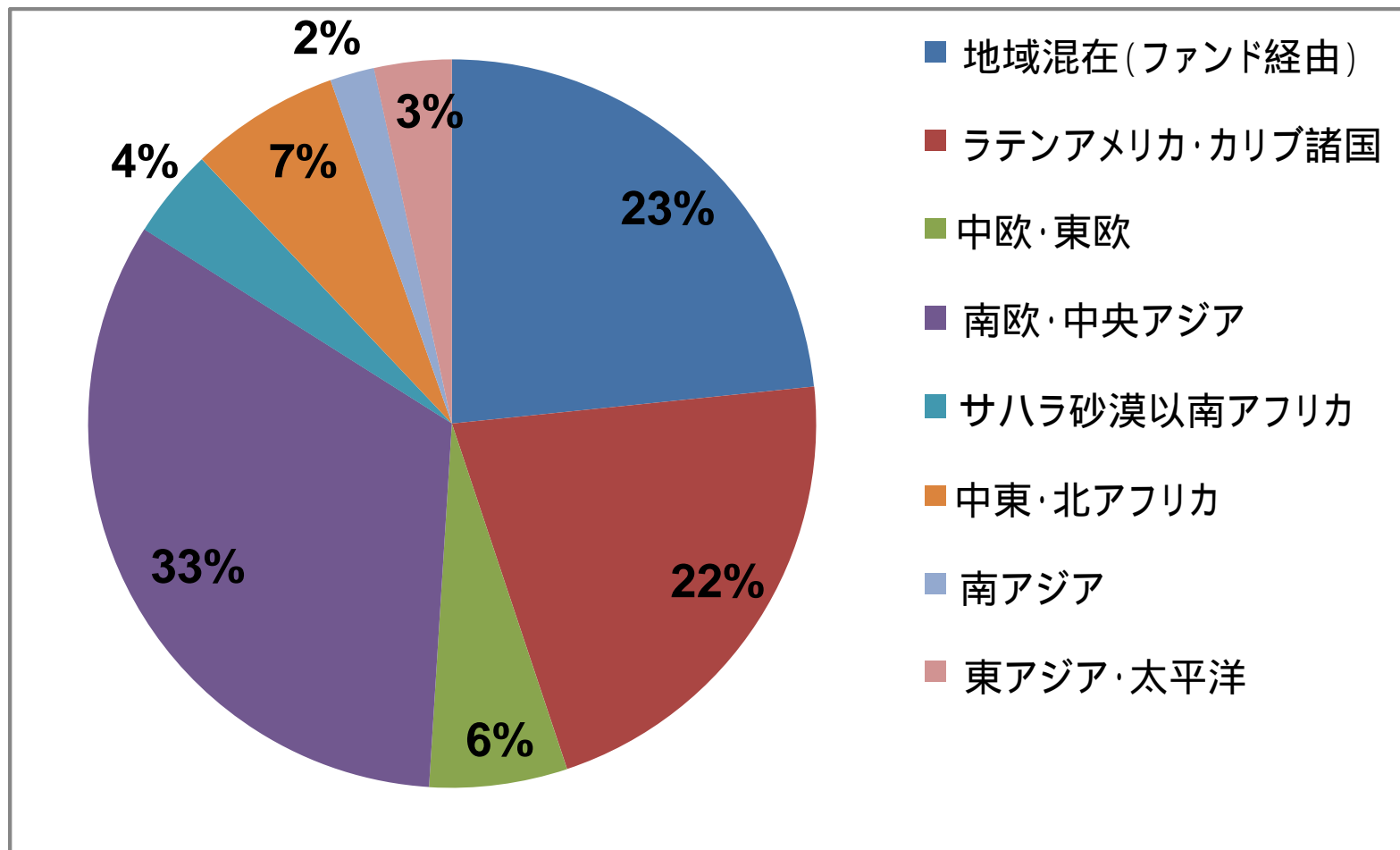


IFC - マイクロファイナンスのNo.1投資家

	IFC	業界全体	需要
投資合計	12億米ドル	300億米ドル	30億人が毎日 1米ドル未満で 生活
国数	60以上	103	
MFIの数	延べ123 (延べプロジェクト数: 189)	3,000以上 (CGAP/MIXは1,300を 把握)	
借り手数	2,000万人以上	1億3千3百万人(2007年) (わずか2%のMFIによって 提供)	
年間成長率	30-40%	55%	

地域分布 (MIVを除く)

2009年6月30日現在



コンパルタモス債券発行及びIPO

□ 過去と現在

- 1991年: 資本金5万米ドルでNGOを設立
- 2001年: SOFOLに転換 - IFCが参加
- 2005年: メキシコ初のMFI
- 2006年: 銀行に転換

□ 初期投資

- 66万米ドルの出資
- 100万米ドルの融資

□ 業績

- 2004年: IFCは機関投資家向けの初のMF格付け債券を提供するためクレジット補完条件付債券発行プログラム(5億ペソ - 4,500万米ドル)をローンチ
- 2005年: 第2回債: 3.1億ペソ - 募集金額の3倍の投資家需要
- 2007年: 中南米のマイクロファイナンス機関としては初めてのIPOで4.07億米ドルを調達。IFCは11,302,644株(3,890万米ドル)を売り出し
- 2009年の統計: 資産 5.87億米ドル、純資産 2.06億米ドル、ROE 39%、ROA 15.4%
- 2009年現在: 融資先数 110万人 (98% は農村地域の女性)



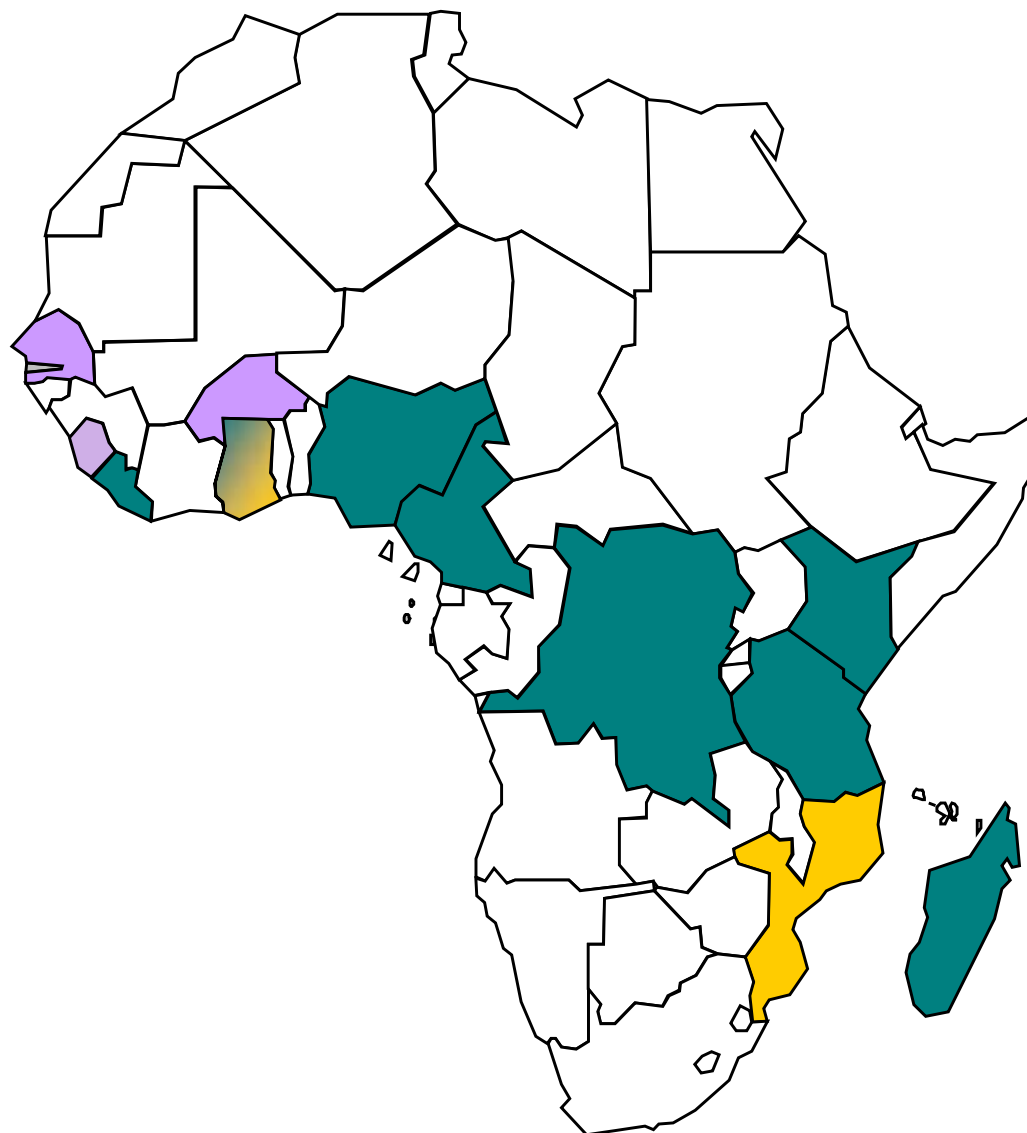
ネットワークパートナー/グリーンフィールド プロクレジット・グループ (PCH)

- プロクレジット・ホールディング (PCH) はIPCによって1998年にドイツで設立
- IFCはPCHの創立から関わり、グリーンフィールド・プロジェクトに投資
- PCHはIFCにとって最も古く、かつ最大のマイクロファイナンス顧客: 2008年12月現在、IFCの投融資は1.09億米ドル(ネットワーク銀行8行との総額7,600万米ドルの協調融資及び3,200万米ドルのPCH宛出資)
- PCH傘下の22行はアフリカ、中南米とカリブ諸国及び東欧にて業務展開 (コンゴ民主共和国, シエラレオネ共和国, ガーナ, モザンビーク, ウクライナ, ルーマニア, セルビア, グルジア, モルドバ共和国, ボスニア, コソボ, ブルガリア, マケドニア, アルメニア, アルバニア, ニカラグア, エルサルバドル, ボリビア, エクアドル, コロンビア, ホンジュラス, メキシコ)
- 2008年12月現在、PCHのマイクロ・ローンの件数は、100万件以上



プログラムの概略: アフリカにおけるIFCによるマイクロファイナンスのスタートアップ

現在活動中プロジェクト	
1	K-REP ケニア ('98年度)
2	Africap ('03年度)
3	Accion ナイジェリア ('05年度)
4	ProCredit コンゴ ('05年度)
5	AccessBanque マダガスカル ('07年度)
6	MicroCred マダガスカル ('07年度)
7	AccessBank タンザニア ('08年度)
8	Advans ガーナ ('08年度)
9	Advans カメルーン ('08年度)
10	Advans コンゴ民主共和国 ('08年度)
11	AccessBank リベリア ('09年度)
12	AB MF Bank ナイジェリア (Access) ('09年度)
予定プロジェクト	
1	EB-Accion ガーナ
2	AKAM 西アフリカ
3	MicroCred セネガル
4	Fides セネガル
5	ProCredit シエラレオネ
6	FAULU - ケニア
間接プロジェクト	
1	ProCredit ガーナ
2	ProCredit モザンビーク



MIVの概略: Rural Impulse Fund - 農村及び小規模MFI

ファンド マネージャー

- Incofin- ファンド5本、1億3千万ユーロを管理。延滞なし。
- 19カ国、47のMFIに対する直接投資。(うち7件はソブリン・国際機関セクター)
- IFCが参画した時点で、既にファンドマネージャーとしての実績あり。

ファンド

- RIF - 農村地方のマイクロファイナンス機関を対象。平均投資額125万米ドル。
- 1.5年でほぼ全ての投資が完了。
- カンボジア、ニカラグア、ガーナ、アゼルバイジャン、ボスニア、タンザニア、ナイジェリア、タジキスタン、グアテマラ等の15の地方MFIを支援。



impulse
RURAL

国際金融危機とマイクロファイナンス

背景:

現在、マイクロファイナンスは全世界で約300億米ドルの資産規模と1億3千万人の顧客をカバーしている。約15年のめざましい発展成長の過程では、様々な種類の危機(政治的脅威、インフレ、景気後退、金融業界の崩壊)にさらされてきた。

これらの危機は、以前であれば地域的・国内限定的な現象にとどまり、比較的容易に対処することができた。しかしながら、マイクロファイナンスの金融セクターへの統合と業界自身の商業化(まさにこの2つが、業界の急成長と拡大の原動力であった)が、業界環境を激変させ、新たな脅威にさらすこととなった。

金融危機の影響

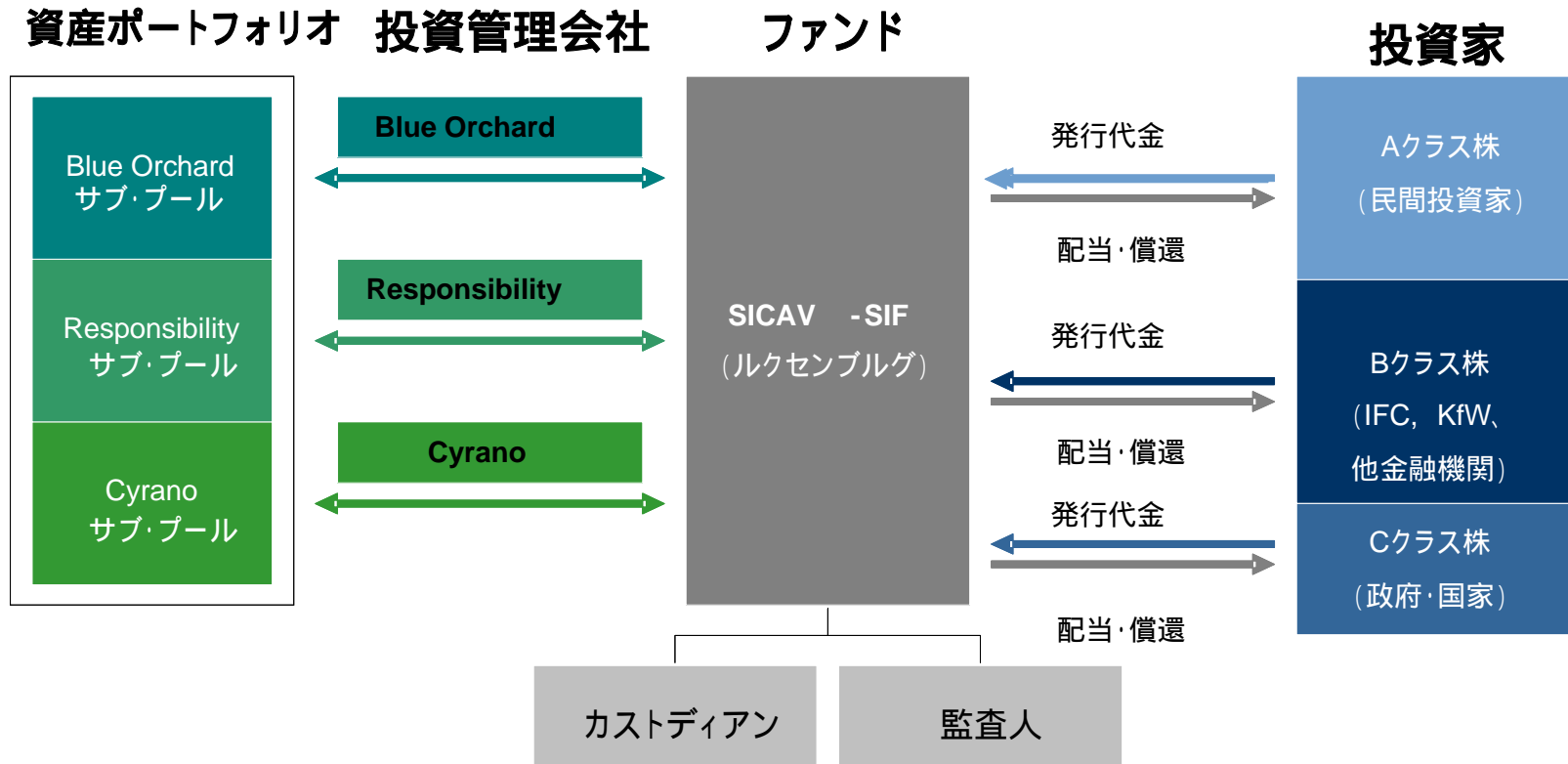
- 有力なMFIでもローン、証券化、預金流動化の市場が利用できなくなり、成長のために必要な借り換えが不可能な状態。
- 地域的にも国際的にも、借り換え用の資金が急速度で枯渇しつつある。
- 銀行の貸し出し枠が打ち切れ、時には預金引き出しが困難。
- 2010年までに資金調達需要が18億米ドルに到達。

マイクロファイナンス強化ファシリティ (MEF)

- **目的:** マイクロファイナンスへの信頼感を更に浸透させ、資金調達と安全な預金への障害のないアクセスを促進。今後12 - 24ヶ月にわたって続くと思われる現在の信用凍結状態において、有力機関を支援するための防衛的ファシリティとして機能。
- **概念/仕組:** 目標の最低金額である5億米ドルは二段階で達成: 第一段階はIFC (1.5億米ドル)とKfW (1.3億米ドル)が参加。第二段階では、他の投資家を招聘し、他の手段や助言サービスを提供する可能性あり。
- **ボトムアップ・アプローチ:** 本ファシリティは100 ~ 150のMFIの詳細な緊急資金需要に基づいて設定 (2009暦年需要は18億米ドルと推定。)
- **実行:** 業界最大手のファンドマネージャーによって執行 (Blue Orchard, Cyrano, 及び responsAbility)。これにより、素早い展開とコストセーブが可能。MEFは役員会および投資委員会によって統治。カストディアンはクレディ・スイス。

マイクロファイナンス強化ファシリティ（MEF）

- IFC とKfWは既に2009年の春夏までに参画するパートナーを獲得 — 他投資家も2009年度中の参加意向を表明。
- 2009年6月までに最低5億米ドルが目標。市場からの需要とのギャップを埋めるため、最終目標は10億米ドル。
- MEFは、最低目標を到達するため、他パートナー招聘段階。FMO(オランダ開発金融公庫)が2009年夏に参加予定。



IFCのマイクロファイナンス - 2009年以降の計画：サービス範囲の拡大

- マイクロファイナンスの大市場へのフォーカス：15ヶ国が世界の貧困の75%を占める
 - 中国、インド、エチオピア、ナイジェリア、南アフリカ、パキスタン、バングラデシュ、メキシコ、インドネシア、ロシア、ブラジル、トルコ、エジプト、モロッコ、フィリピン
- 預貯金の機動性向上と多様化：持続可能性と貧困削減の鍵
 - 法制の改善
 - バックオフィスの処理能力
 - インセンティブ方式
 - 商品の多様化
- キャパシティー/制度の確立 (アフリカ、カリブ諸国、中央アジア、中東・北アフリカ、太平洋地域)
 - 個別国、地域における旗艦MFIの設立
 - 伝統的金融セクターとの更なる統合



ありがとうございました 更なる詳細は・・・

この文書は、参考資料の目的のみに作成されており、ここに書かれている情報は要約であり、完全な情報ではありません。この文書は、目論見書の内容の一部ではなく、IFCが発行する証券を評価するための基本情報を提供するものでもありません。

IFCに関するより詳しい情報をご希望の方は、以下のIFCのサイトにて現在のInformation Statement、財務諸表、及び関連の資料を閲覧することができます。

www.ifc.org/investors